

## 平成 29 年度 第 1 回自己評価委員会 議事録

実施日：平成 29 年 4 月 3 日（火）15：00～17：00

場 所：学校法人 愛知理容学園 アリアーレビューティナー専門学校 職員室

出席者：委員 池山英一（理事長・校長）  
高木義仁（理事）  
丹羽 豊（理事）  
森山郁子（事務主任）  
猪股奈津子（事務職員）  
福本稔巳（教務主任 理容科専任教員）  
高橋秀典（美容科専任教員）  
水野 亮（美容科専任教員）  
永田伊都実（理容科兼任教員）  
山口 孝（理容科専任・美容科兼任教員）  
磯部臣史（理容科兼任教員）

順不同

### 委員会次第（概要）

#### 1. 開会

- （1）理事長・学校長挨拶（2）メンバー確認

#### 2. 議事

事前に会議出席予定者に回覧した別紙自己評価（案）を基に会議を進行

- （1）専修学校における学校評価・情報公開のイメージの説明及び 29 年度第三者評価に取り組む旨の報告。
- （2）自己評価（案）について報告
- （3）自己評価（案）に対する意見及び質問

#### 3. 閉会

## 上記委員会次第「2. 議事進行」概略について

### (1) 専修学校における学校評価・情報公開のイメージについて

- ・山口より、別紙添付資料に基づき説明。主な内容として、自己評価は平成 19 年度より専修学校においては全国一律に義務化されている事、また職業実践専門課程認定校においては学校関係者評価まで義務化である事を説明。29 年度においては第三者評価を受審し、取り組んでいくことが理事会で決議された事、その内容・観点について説明し、学校全体としてこれを指標し、経営の質、教育の質の向上に取り組んでいくことを報告する。

(特に質問等はなし。)

### (2) 自己評価 (案) について報告

- ・山口より、別紙自己評価 (案・回覧済) に基づき、学校の教育目標から 28 年度に定めた目標計画、評価項目 (1) 教育理念・目標から (1 1) 国際交流について評価点数や評価点数に至った根拠を説明する。

### (3) 自己評価 (案) に対する意見及び質問

#### 自己評価表 (案)

##### (1) 教育理念・目標

- Q.学校の理念・目的等が学生・保護者に周知されていない。
- A.始業式等学校行事の際は、教職員・学生全員で唱和する。また各クラス、フロアに掲示する。

##### (2) 学校運営

- Q.運営組織や意思決定機能が有効に機能していない。
- A.最低月 1 回は職員会議をするようにする。理事会も回数を増やすものの、案を作っ  
て期限をくぎって取り組む姿勢がないと、意味が無い。理事会が理事会の要をなし  
ていないと思う。以前厚生労働省監査でも言われたことがある。新入社員や退職者  
が決まっているのなら、朝礼等で報告してほしい。準備すらできない。

Q.人事・給与に関する制度について。

A.人事、給与制度は改善したいが、具体案がない。就業規則で服務規程や表彰・懲戒規程は見直し中。

### (3) 教育活動

Q.個々の学生に対して習熟度・理解度を把握しながらのサポート体制について。

A.技術大会に取り組む際、なかなか継続して練習ができていない。

Q.新入教職員に対する学内 OFFJT、OJT が足りないのではないか。

A.職員会議等が無いから情報交換も満足にできていない。教員の資質の足りなさが学生にしわ寄せがいつているのではないか。

### (4) 学修成果

Q.退学率の低減について。

A.他校では、カウンセラーがいたり教職員のレベルアップを図っているところもある。結局アリアーレは退学者問題に対して、「今からできる事は何か」「明日からどうするのか」が無い。結果に対するお詫びなんかいない。これからどうするのが大事で、それを決める意思決定機関でないという意味はないし、出席する意欲もなくなる。担任以外にも学生の声を聞ける仕組みがほしい。

### (5) 学生支援

Q.保護者と適切に対応しているか。

A.昨年度より教員・学生間の 2 者面談は実施しているが、今年度は保護者を含めた 3 者面談にしてはどうか。

### (6) 教育環境

Q.防災に対する体制は整備されているか。

A.食糧等確保が現時点でできておらず、評価を 4 から 3 に変更。

### (7) 学生の受け入れ募集

Q.学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。

A.体験入学者数及び 29 年 4 月入学者数が前年より大幅ダウンで我々が伝えたいことができているとは、必ずしも言い切れない。評価を 4 から 3 に変更。

(9) 法令等の厳守

Q.自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。

A.問題点として学生に対する呼び方が議題になる。色々案があり、それぞれの理由に対し考慮すべき点がある。ただきちんと1つに決めないと結局何ら改善されず、放置、現状維持のまま。決めるのは最終的に経営者の仕事。

(10) 社会貢献・地域貢献

Q.福祉ボランティアについて。

A.現在、障がい者施設で入浴介助はしていないのでその部分は削除。在校生は希望者の参加だが、卒業までに1度は経験するか学校に来ていただいて講習を受ける取組みがあってもよいのではないか。清掃ボランティアで学生から「なんでやらないといけないのか」と反発する意見あり。アリアーレの取組、社会に対する向き合いを落とし込まないと理解が進まない可能性がある。現在は入学パンフレットにもうたわれている。

(11) 国際交流

Q.留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

A.現在、外国籍の学生が昼間課程で2名います。社会人等門戸を広げた取り組みをしているが、戦略といえるまでのことができているかは疑問。よって評価4から3に変更。

※自己評価（案）と以上の意見を基に、自己評価が出来上がる。

記録：山口